

『中小企業景況調査概況』

福井県信用保証協会では、協会利用企業者の現状を把握し中小企業の経営をサポートするため、景況調査を実施しましたので調査結果をお知らせいたします。

(当協会の利用企業は従業員20人以下の企業が約9割を占めています。)

【概要】

- ・ 今回(平成29年4～6月)調査における中小企業の景況感は、「業況」、「売上高」、「採算」で前回(平成28年10～12月)調査より悪化。「仕入価格」、「資金繰り」は横ばいとなり、全体的に厳しい状況となった
- ・ 来期(平成29年7～9月)については、「業況」「売上高」「採算」で改善を予想するも、「仕入価格」「資金繰り」は悪化の見通しであり、先行き不透明な経営環境が見込まれる

【保証動向】[平成29年度(4～6月末)]

- ・ 平成29年度(4～6月末)の保証動向は、保証承諾額は前年比84.2%となった。資金用途別では「借替資金」が承諾全体の5割以上を占めており、資金繰りの改善を図る需要は高い
- ・ 代位弁済額は、前年比52.6%と減少したものの、条件変更による返済緩和と債権は高水準で推移しており、予断を許さない状況にある

【企業の声】

- ・ 時間外労働の削減での生産性低下が懸念。ハローワークなど募集をかけても人が確保できない
- ・ 新規製品(自社にとって)の受注が増えているが、設備投資が困難な為(資金調達等)、当面軽微な設備投資での対応になると思われる。人手の高齢化も考えていく
- ・ 受注減により収益悪化、資金繰りが懸念され不安
- ・ 公共工事の減少により受注競争が激化

【景況アンケート】[当協会利用の1000企業を対象に実施、331企業が回答(回答率33.1%)]

- ・ 今期(平成29年4～6月)の売上高DI(増加－減少)は△20.5(前回より9.7ポイント下降)となり、調査項目5種の中で最も悪化した
- ・ 経営上の問題点としては、「売上・受注の減少」「同業他社との競争激化」が依然として多く、特に「人手不足」を問題とする企業の割合が高まっている